

令和7年度第3回 滝川市環境市民委員会の開催結果について

開催日時	令和7年9月3日（水） 午後2時30分～午後5時00分
開催場所	滝川市役所3階 301・302会議室
出席状況	【委員】 出席：高瀬委員長、板谷委員、大崎委員、金子委員、松田委員、山西委員 欠席：長澤副委員長 【事務局】 くらし支援課 田上課長、種田補佐、米内係長、目黒主任級主事、岡村事務補
議事内容	1 開会 2 報告事項 令和6年度年次報告書について ※事務局より「令和6年度年次報告書」について報告 3 協議事項 ①評価シートの作成について【資料1】 ※事務局より【資料1】について説明 ※委員より【資料1】について意見 委員： 年次報告書の取り組み内容の実績を見て、令和6年度に対する評価するということで、基本的にはできているのに○がついてなければ、指摘するということで良いか。 事務局： 年次報告書の項目は基本的に拾っているが、項目内容としてやっていないのではないか、何か足りないのではないかといった意見や、この項目内容を評価している、もう少し工夫が必要ではないのかといったコメントでも良いので、意見等をいただきたい。 委員： 評価シートの見方として、一部分で取り組み内容欄に対して、実績欄が空欄になっているところが散見されるが、どのように考えたら良いか。 事務局： 必ずしも評価シートの取り組み内容欄と実績欄の軸が一致しているわけではない。項目欄ごとに全体的に見ていただく必要がある。 委員： 表現方法として、実績欄にある線はいらないのではないか。 委員： 実績欄と実施年度欄が一致するようにするためにも項目上に線は引かざるを得ないのではないか。 事務局： 評価シートの表現方法について見直しする。 ※委員へ9月17日を期限に意見等を依頼 協議事項 ②第3次滝川市環境基本計画（骨子案）について【資料2】 ※事務局より【資料2】について説明 ※委員より【資料2】について意見 委員： 目指すべき環境の姿という非常に漠然とした方向性としたときに、10年前と現状において、最も端的な状況としてローカルなシェアなど、世の中の流れを見る必要がある。骨子案だけ見ると第2次計画の延長線上のものとなるが、その状況で、目指すべき姿がその方向なのか。世の中では10年間で、こんな方向になりつつあるみたいに、計画を相場的に当たり障りのないものを作っても、逆に現実と乖離しているようであれば、現実の方向に沿うようなものを考えなければならない。 事務局： 後ほど、報告するアンケート結果の中で10年前に行ったアンケートと比較できるところをお見せする。また、環境省で策定している環境基本計画等々の年次ごとの推移を確認してもキーワードの推移は当然あるが、温暖化やCO2削減といった言葉が最近強まりつつあると思う。そういう中では、第2次計画を策定したときにあった、京都議定書やパリ協定のような世の中の環境の動きとして、大きな変革となる明確なものがないため、第2次計画の延長というイメージがある。ただ、技術的なもので、ハイブリッドカーの普及やソーラーパネル等の普及といった我々が意識や努力をしなくても省エネルギー等に取り組める環境になった。10年前の策定時では意識を持って取り組まなければならなかったことが自然にできているということがアンケート結果の中でも傾向に現れていると思う。

委員： 逆に当たり前になっているから、キーワードを拾い出すのが難しくなっている。その辺も含めて考えていかなければならない。

委員： 文言の確認ではないが、年次報告書の1ページにある基本目標では、「豊かな環境を1人ひとり」と算用数字を使用しているが、今回の骨子案の「目指すべき環境の姿」では漢数字を使用している。また、骨子案の計画の構成の項目では長期目標とあるが、年次報告書内では基本目標となっているため、統一した方が良い。

事務局： 第2次計画に合わせて、計画の構成の項目名称を基本目標とし、漢数字を使用することで統一する。

第3次滝川市環境基本計画ワークショップ前の参考としての資料説明について
【資料3】【資料4】【資料5】

※事務局より【資料3】【資料4】【資料5】について説明

※委員より資料内容についての確認・質問

委員： PFOS・PFOAはダイオキシンのような有害物質の略称で良いか。また、デコ活とは何か

事務局： PFOS・PFOAとは、室蘭で問題となった水に含まれている有害な化学物質のこと。また、デコ活とは環境省で行っていた「COOL CHOICE」が終わり、代わりとして始まったCO2削減を目指した活動のこと。

委員： デコ活というものを初めて知った。あまり認知されていないのではないか、アンケート回答者も知っていて回答しているのか。

事務局： 認知度は低く、正直回答者にもどこまで理解されているのかが怪しいところではあるが、前回の27年度のアンケートの際は、「地球温暖化の取組にどう対応すべきか」という質問をしており、非常に多くの回答者から取り組まなければならないという回答を得た。CO2削減については、比較的に関心が高いと考えている。

委員： 急激に温度変化があり、温暖化とは何なのかというと誰もがCO2やオゾン層の破壊といったイメージを持っている。

事務局： 温暖化ガスの削減をしなければならないという意識はあると思うが、平成27年度と比較して、積極的にしなければならないという意識は下がっている。【資料4】の7ページを見ると、平成27年度は「①大気汚染、騒音・振動、水質汚濁や悪臭などの公害防止対策」が優先度の順位に上位に来ていたが、令和7年度は優先度の順位が下がっているなど、全体的に環境への直接的な意識が下がっている傾向にある。

委員： 環境負荷を下げるためではなく、プライベートでも企業でもコストダウンを前提に物事を見ていった結果が、環境に優しいということか。

事務局： 比較的にコストダウンなど、経済活動に結びつきやすいものについては、取組をしているという結果となっている。

委員： 第1次・第2次計画では、環境というものは金がかかるというイメージが強かった。逆説的にLED化を進めるなど、「こうすれば企業として利益があるんだ」というイメージで推進していき、結果的には環境負荷が減るというものになり得るということか。

事務局： 経済活動の活性化と環境負荷の減少に向けた取組でも両立しないものは難しい。

委員： 初期コストが昔に比べたら、それほどかからない取り組みやすいものが出てきたということか。

事務局： はい。そのことが、【資料5】の5ページ目にある「環境保全に取り組むメリット」の「②光熱費・燃料費の低減」が圧倒的に高く、「①優位性の構築」、「③知名度・認知度の向上」よりも上をいっているということに現れているのではないかと考えている。昔はISOの取組は企業の知名度・認知度の向上のためPRしながら、取り組んでいたことが多かったが、最近はそうではなくなっている。

委員： 現状としては、あえて行う環境問題に対する取組が弱くなっているということか。

事務局： はい。今回のアンケートを結果をみて、これから委員会の中で皆様に考えていただくことは、難しくなっていると感じている。

委員： 企業もそうだが、「これをやれば家計に優しい」という取組で結果的に環境負荷の減少につながっているということであるが、今回としては、基本的にはそういうことなく、環境として取り組むべき方向性を決めなければならないということが良いか。

事務局： 当然、経済活動と一体となっているものはある。また、経済活動では

なく日頃の活動としてやるべきことあるので、それらを含めて整理していきたいと考えている。

第3次滝川市環境基本計画ワークショップ【資料6】

※事務局より【資料6】について説明

前段で説明した骨子案を参考とした上で、目標・テーマを決めるためのアプローチとして、ワークショップ方式で行うことを説明。委員6名を2グループに分け、滝川市の現状と課題（滝川市の環境で、困っている、不便に思っている、力を入れた方がよいことなど、滝川市には何が足りていないのか）について意見を出し合ってもらふこととする。

Aグループ協議内容

○協議内容を以下の6種類に分類した。

【ごみ対策】

- ①家庭で排出される廃油はどうあるべきか。昔は油を精製して自動車の燃料にしていた。廃油の回収にしても、有効活用されるということをアピールする必要がある。
- ②資源を分別することでどんなメリットがあるのか周知をするべき。
- ③ポイ捨て・不法投棄が減らないので、ゼロを目指すこと、ゼロにならないにしても減らすための努力が必要である。
- ④自主的にごみ拾いなどの活動を意識して行う市民がいるので、そういった活動の情報発信をしてはどうか。
- ⑤ペットボトルなど色々な製品が軽量化・簡素化されており、ごみが少なくなる傾向があるはずなのに、ごみの排出量が減っていなかったり、リサイクル率があまり上がっていないので、なんとかしていかなければならない。
- ⑥現在、ペットボトルや空き缶は潰して資源ごみとして出すことができない。潰して出せるようになれば、袋の節約や運搬する量が減ると思うので、トータルコストが下がるのではないか。
- ⑦大きいごみ袋しかないのは、収集する回数を減らすためであり、コスト削減につながると思うが、小さいごみ袋を導入してほしい。

【環境コミュニティ】

- ①礼儀正しい小学生が増えてきているので、色々なイベントに子ども達を招くだけでもにぎやかになるし、子ども達の影響力が周囲に現れると思う。また、「釜石の奇跡」のような子ども達の災害に対する備えが突出している地域があるので、環境面でそのような地域にできないだろうか。
- ②環境面での子どもと地域の関わりを増やせないだろうか。
- ③環境に関して市内でも色々な団体が活動をやっているので、そういう活動を広く知ってもらいたい。

【自然環境】

- ①市内で自然や動物に接する機会が少ないので、日頃の近いところでそういった機会があれば良いと思う。
- ②市内の街路樹が少なく、あっても手入れがされていないことが多いため、整備をすることで町並みの美しさにつながる。
- ③滝川の除排雪は他市町村に比べると良い方だと思うが、除排雪に従事するオペレータ等が不足している。
- ④公園などの施設の景観が良くない。公園の存在を知らない人も多いと思うので、いろんな人に使用してもらえるような周知や整備が必要ではないか。
- ⑤道路の落ちているごみや街路樹の葉っぱ、空き地の雑草などで汚いことがあるので、整備をした方がよい。
- ⑥商店街の花壇はすごく整備されていて綺麗である。そういった整備をしている活動や思いが伝わっていないので、頑張っている活動している人の情報発信が必要ではないか。

【地域環境】

- ①買い物利便性には地域差がある。農村地域が買い物をするための手立てとして乗り合いタクシーのようなものが必要ではないか。

②駅前が静かだと感じるため、学生や子ども達の憩いの場になるような場所があれば、活性化するのではないかな。

【環境 PR】

- ①市民がより多く参加できるごみの分別講座のような機会が増えれば良い。そういった活動が資源の再利用につながると思う。
- ②町を歩いているけど、環境への取組の周知があまり見られないので、取組の周知やPRに力を入れてはどうか。
- ③エコな活動をすると、市民も事業所もコストダウンにつながることで、財布を優しくするというのもっとPRした方が良い。
- ④市民も事業所も環境への取組を行うことでの費用削減や楽しさといったメリットを知らない。メリットを実感できるような情報発信や取組が足りておらず、そういった身近で簡単に環境へ寄与する活動ができるのではないかな。

【その他】

- ①アンケートの分析で、色々な課題が見えてくるが、その中でも重点を絞って整理していく必要がある。
- ②環境だけでなく、SDGsを全面に出したら良い。滝川市として、この活動はSDGsのここに繋がるといったものが見えないので、つながりを意識して活動していければ良いのではないかな。
- ③省エネや再エネについて具体的な取組が見えない。滝川市として取組を設定したり、発信したりと進めているものがないため、世の中の的にそういうものが必要ではないかな。

○協議内容に対しての質問

- ・SDGsを全面的に打ち出すという案について、具体的な案は出たか？
→具体的な案までは深掘りをしていないが、例えば学校教育の中でSDGsを取り組むことで、子ども達が早いうちからSDGsに取り組み、2030年までに目標が達成できるようにしなくてはならないと思う。





B グループ協議内容

○協議内容を以下の8種類に分類した。

【ごみ対策】

課題

「ごみを捨てる場所がない」

現状

- ①プラスチックごみの分別を行っていない
- ②ポイ捨てによって、道路沿いのごみが多い
- ③公園内にペットボトルなどのごみが捨てられている
- ④ごみ箱がないので、ポイ捨てをされてしまう

ごみの分別項目が少ない。プラスチックのリサイクルをするためにプラスチックごみの分別を行う必要があるのではないかな。また、ごみのポイ捨てや不法投棄がされる場所は決まっているので、そこにごみ箱を設置するだけで、ポイ捨てや不法投棄が減るのではないかな。

【自然環境】

現状

- ①自然環境を学ぶところが少ない

自然環境も含め環境自体について学ぶ機会が少ないので、学ぶ機会をつくる

必要があるのではないかな。

【地域環境】

課題

「空き家が多い」

現状

- ①市街地の環境が防犯面で心配
- ②空き家・空き地（耕作放棄地）などがある
- ③道路の雑草が伸びている
- ④シャッター通りの雑草が多く環境が悪い

空き家・空き地が多いため、雑草の繁茂や防犯面で心配である。空き家や空き店舗のリストをつくり、古民家の整備や店を開きたい市外の方向けに空き家や空き店舗を有効活用できるような仕組みをつくってはどうか。

【交通環境】

課題

「公共交通で移動できるところが限られる」

現状

- ①買い物・通院など交通が不便
- ②交通機関・公共交通が少ない

人口が少ないこともあるが、滝川市は交通の便が非常に少ないと思う。自家用車を持っていない方も多数いるので、新十津川町や浦臼町で運行している小さいバスを導入できないだろうか。

【自動車関係】

現状

- ①電気ステーションが少ない
- ②EV 促進活動が進んでいない

EV 車の普及率が北海道は低い。冬の EV バッテリーの能力が夏よりも落ちるので、価格が高いわりには積極的に乗ろうという人がいなかったり、4 輪駆動車の EV 車が少なかったり、電気を充電するステーションが少ないなど、様々な要因があるが、普及に努める必要がある。

【エネルギー関係】

現状

- ①省エネ等の補助金 PR が少ない
- ②他県に比べ、ガス料金が安い

事業所としては、省エネ等に使える補助金の PR が少ないと感じる。いろんな補助金があるのはわかるが、何に使えるのかわかりづらいため、明確なものがほしい。また、道外から来る学生でガス料金が安いという声があるため、そういった補助金を導入してはどうか。

【高齢化社会】

課題

「老人が集う場所が少ない」

現状

- ①元気な 1 人暮らし老人世帯が多い
- ②デジタルデバインド高齢者

江部乙には、元気な 1 人暮らしの老人世帯が多いが、お年寄り同士のコミュニケーションはあまりできないため、老人が集う場所を設けてはどうか。そういうところがあれば、情報共有ができて、デジタルデバインドについても解消していくのではないかな。

【その他】

現状

- ①若者の人口減少

一番の問題は人口減少であり、他の環境分野に密接に関わっている。減少自体はどうすることもできないので、ここからどう発展していくのか考えていくことが必要ではないかな。



	※今回のワークショップの内容について、次回までに事務局でまとめさせていただく。 4 その他 次回の開催日程について 10月8日に開催を予定している。詳細は、後日確定したものを皆様にご連絡したい。 5 閉会
--	---